

昭和三年六月廿一日

独立歩兵第一旅田司令部隊略歴

部隊長官氏名 陸軍少将 浅見 敏彦

<p>田 月 日</p>	<p>昭 三 一</p>
<p>概</p>	<p>編成完了の概況          軍令陸甲才西十五号才三十三号兵団編成改正に依り          昭和一九年二月二十三日、山東省津浦線兗州に於て独立歩兵第一旅          田司令部隊として編成完了す          部隊行動概要及日誌          司令部隊は編成完了後、主として津浦線沿で膠濟線地区に在りて左記          の如く治安哨正整備又作戦に在り          山東省濰陽兗州附近に治安哨正討伐整備(整備地区、山東省兗州)</p>

0156

年月日	概
自昭三 四 五 六 八	<p>才四十三彈秀娘一号作戦参加の儘 山東省莒県に進軍（作戦地域、山東省濱海地区）</p> <p>山東省莒県附近の沿辺南正警備一警備地区（山東省莒県周辺）</p> <p>警備証書発布後昭和三十一年二月五日迄 旅店附近に在りて膠着の 復旧作業並に同沿線警備に任じつつ復員業務に従事す</p> <p>内地帰還の爲旅店出張二月十四日青島（滄口東中營）に集結乗船待 期</p> <p>青島出張</p> <p>三月一日佐世保海上陸戦立歩隊の一旅団司令部の編成を閉じ、復員 完結す</p> <p>復員完結後旅団長浅見敏彦以下四名残務整理の爲</p> <p>三月四日、二日市支那派遣軍復員本部に出頭す</p> <p>右期間内に於ける旅団長官代名左の如し</p> <p>初代 陸軍少将 宮下建一郎      二代 陸軍少将 浅見敏彦</p>

昭和三十一年三月

独立歩兵第百九十一大隊略歴

大隊長官氏名 陸軍大尉 永高利朗

年月日	概	要
昭和 五 三 五	編成完結の状況	軍令陸甲第百十五号により、独立歩兵第一旅団編成下令 山東省曹州道荷沢に於て独立歩兵第百九十一大隊として編成完結す 部隊行動概要及び日時
自 三 二 五	山東省曹州道附近一帯の治安肅正糾代警備	部隊は編成完結後、主として山東省曹州道附近、次で膠済沿線地区 に在りて左記の如く治安肅正警備及び作戦に在す
至 四 二 五	警備地区 山東省荷沢	第四十三軍秀雄一号作戦参加
五 二 六	(作戦地区 山東省魯南濱海地区)	

年月日		概
至 自 五 八 二	<p>山東省莒縣附近に治安清正警備  (警備地区 山東省莒縣王家山附近)  停戦詔書発布</p> <p>膠濟線復舊作業並に同線警備及び復員業務に在事  (警備地区 龍口とレテ周村附近)  被接收りたる済南に向ニ周村出發  災番馬等被接收</p> <p>(山東省済南)  内地帰還リタリ済南出發  青島(滄口集)中區に集結待機  青島出發  佐世保巷上陸  独九歩兵分隊九十一大隊ヲ備放セ解テ復員  大隊長以下二名、残務整理ノタリニ日帝支那派遣軍終戦ニ出頭</p>	<p>受</p>

	年 月 日
<p>右期向に於ける大隊長官左の如し</p> <p>初代 陸軍中佐 伊、藤、次、作</p> <p>二代 " 大尉 永、島、利、朗</p> <p>(昭和二十年三月十五日附)</p>	続 号

本館のシテ内

北支

四十三

独立歩兵第百九十二大隊略歴

師団長 陸軍大尉 広瀬 之 節

年月日	概 要
昭 和 一 九 二 五	<p>編成完了の状況</p> <p>昭和十八年軍令陸甲ホ一五五ノ據リ、独立歩兵ホ一旅団編成下令 昭和十九年二月二十五日、山東省濰縣に於て左の如く編成完了</p> <p>大隊本部 歩兵五個中隊 歩兵砲一伯中隊 通信隊 大隊長 陸軍少佐 高橋 博 藏</p> <p>行動ノ概要</p> <p>滿洲先鋒と共に大隊本部を濰縣に置き師団旅團、青島、金嶺、烟台 泉の警備を担任す</p>

年月日	
概	<p>元 五 三 大隊本部を滋陽県兗州に移駐す 引続き才一境の警備地域並津浦線南村 官庄間の鉄道警備を担 任す</p> <p>三 四 五 より五月二十三日迄秀嶺一号作戦に参加す 大隊長交代 陸軍大尉・広 題 之 郷</p> <p>五 五 秀嶺一号作戦終了と共に山東省諸城縣に移駐す号作戦準備期開始 大隊本部を諸城縣許家溝に置き 諸城 泊里鎮に各一中隊を配し 警備用正副代並村米陣構築</p> <p>終戦と共に青南線閉鎖のため八月二十二日 許家溝出發諸城を経て高 密に出て才四中隊（泊里鎮に駐屯）を單獨 膠濟線打通作戦に参加 奉天并に到り反転す</p> <p>友軍後援隊 寧波場 確保の命に依り十月四日 淄川泉南定率比軽 金属工場内に到着 同北の警備</p>

年 月 日	
概 要	<p>           炭鉸積保のたより十二月五日 南定出発            十一月五日 清山県和河に到着 同地附近の整備            清南に集積のたより西河出発            一月二十日 噴台に到着            一月二十三日 天幕陣取 救医資材取扱            復讐のたより護台出発            港口集積中並に到着 同地に於て乗船待機            青島老出帆            卸隊長支那側の要求に依り副官以下五名 同上補佐のたより兼中並に            残留す            佐世保港上陸 復員         </p>



その内 北 四十三

独立歩兵才一旅団

独立歩兵才百九十三大隊略歴

部隊長 陸軍大尉 小林 大七

年月日	昭和 八 一 二	<p>編成発給の状況          軍令陸申才百十五号により独立歩兵才一旅団編成下令          昭和十九年二月二十五日山東省沂州道沂州に於て独立歩兵才百九三          大隊として編成発給す</p> <p>部隊の行動概要及び日誌          部隊は編成発給後、主として山東省沂州道附近、次で膠済鉄道          沿線地区に在りて左記の如く治安哨正警備並に作戦に任ず</p> <p>山東省沂州道附近一帯に治安哨正討伐警備（警備地区山東省臨沂          黄県）</p>
-----	-------------------	---

年月日	
概	<p>           至 自            四 三            五 四            六 五            七 六            八 五            九 四            一〇 三            一一 二            一二 一            一三 〇            一四 〇            一五 〇            一六 〇            一七 〇            一八 〇            一九 〇            二〇 〇            二一 〇            二二 〇            二三 〇            二四 〇            二五 〇            二六 〇            二七 〇            二八 〇            二九 〇            三〇 〇            三一 〇            三二 〇            三三 〇            三四 〇            三五 〇            三六 〇            三七 〇            三八 〇            三九 〇            四〇 〇            四一 〇            四二 〇            四三 〇            四四 〇            四五 〇            四六 〇            四七 〇            四八 〇            四九 〇            五〇 〇            五一 〇            五二 〇            五三 〇            五四 〇            五五 〇            五六 〇            五七 〇            五八 〇            五九 〇            六〇 〇            六一 〇            六二 〇            六三 〇            六四 〇            六五 〇            六六 〇            六七 〇            六八 〇            六九 〇            七〇 〇            七一 〇            七二 〇            七三 〇            七四 〇            七五 〇            七六 〇            七七 〇            七八 〇            七九 〇            八〇 〇            八一 〇            八二 〇            八三 〇            八四 〇            八五 〇            八六 〇            八七 〇            八八 〇            八九 〇            九〇 〇            九一 〇            九二 〇            九三 〇            九四 〇            九五 〇            九六 〇            九七 〇            九八 〇            九九 〇            一〇〇 〇         </p>
要	<p>           十四十三軍秀嶺一帯作戦参加            (休戦地区 山東省魯南決戦地区)            山東省日照県附近の治安維持の警備            (警備地区 山東省日照県日照及母家官庄附近)            停戦詔書發布            膠濟線復旧作業並に同沿線の警備及び復員業務に従事            被救収力の力の濟南に向ひ益都出發            文島彈薬馬匹医科資材被接収(濟南)            内地帰還力の力の濟南黄台出發            青島特別市療口兼中管の集館 併期            青島港出帆            佐世保海上陸         </p>

七  
 支  
 四十三

年 月 日	三 三 七
概  要	<p>           独立歩兵百九十三大隊の編成を解き 復員を終了            大隊長以下二名残務整理のため二日市支那派遣車運送所に出頭            右期間に於て大隊長官代名左の如し            初代 陸軍中佐 松岡 勝明            少佐 松浦 隈雄            大尉 小林 大七            (昭和二十年十二月十日附)         </p>

0166

独立歩兵第一九四大隊略歴

通称名 北支派遣隊第一四三七部隊  
師隊長 陸軍大尉 鷲 園 文 二

日 月 日	概  要
	<p>編成年月日 昭和十九年二月二十五日</p> <p>編成地 中華民国山東省済寧県</p> <p>編成元籍の状況 昭和十八年軍令陸甲第一一五号並に昭和十九年方面軍珍編第一号に據り編成下令第一日</p> <p>昭和十九年二月二十五日 山東省済寧県に於て編成完備</p> <p>編成左の如し</p> <p>大隊本部 歩兵五ヶ中隊 歩兵砲一台中隊 通信隊</p>

0167

その三十一 内 北支 四十三

日 月 日	自 至  八 六 一 三 一 三 一
統           愛	行動の概観 初代卸隊長 陸軍大佐 石 黒 次 備前尾緒と共々 同日二十一日 清等出發 三月一日 山東省嶧東東萊到着 同日より同地附近の警備を任す 幹方ニ号作戦に参加す 城彼莊園に掃蕩作戦に参加す 幹方ニ号作戦に参加す 衣刺方十一号作戦に参加す

0168



年月日	
概要	<p> <span data-bbox="1114 517 1150 685">三八</span> 西  終戦の大詔を拜し、新事態に対応す。津  八月二十三日駐屯地出發、膠濟線打通作戦に参加す。  膠濟線高密張店間の打通作戦を終了し、山東省桓台県張莊着。  <span data-bbox="1013 584 1050 685">九二</span> 二  淄川炭硯奪回作戦に参加の上  同日二十三日より山東省淄川縣淄川炭硯並に張博泉の警備を担任す。  <span data-bbox="912 645 949 685">三三</span> 三  濟南に疎歸のため淄川出發  <span data-bbox="826 517 863 685">三一</span> 一  同日二十日濟南郊外黃台到着  矢野祥葉、軍馬、軍火、衛生、戰臣資材の被檢収  <span data-bbox="726 645 762 685">三三</span> 三  復員のため黃台出發  <span data-bbox="625 645 662 685">三二</span> 二  二月十四日濰口集団營到着  <span data-bbox="525 584 561 685">三五</span> 五  青島港出帆  佐世保港到着上陸復員 </p>

独立歩兵第一旅団

独立歩兵第九十三大隊略歴

部隊長 陸軍大尉 小林 丈二

<p>年月日</p>	<p>概要</p>
<p>昭 和 三 一</p>	<p>編成完結の状況          軍令陸甲才百十五号により、独立歩兵第一旅団編成下令          昭和十九年二月二十五日、山東省沂州道沂州に於て独立歩兵第九          十三大隊として編成完結す          部隊の行動概要及び冊          部隊は編成完結後主として山東省沂州道附近及び膠済鐵道沿線          地区に在りて左記の如く給糧補正整備並に作戦に任ず</p>

0171



年 月 日	<p>自昭元 三 四 三</p> <p>二 四 五 四 三</p> <p>八 五 三 二</p> <p>一 九 五 四</p> <p>一 九 三 二</p> <p>一 九 三 一</p>	<p>概</p> <p>要</p> <p>山東省沂州道附近一帶の治安維持並に討伐警備        (警備地区 山東省臨沂 黃泉)</p> <p>第四十三軍考績一号作戦参加        (作戦地区 山東省 魯南濱海地区)</p> <p>山東省日照県附近の治安維持並に警備        (警備地区 山東省日照県日照及阜寧官庄附近)</p> <p>作戦證書発布</p> <p>膠済線復旧作業並に同沿線の警備及び復員業務に従事        (警備地区 山本省 益都金嶺の南)</p> <p>被爆者のための清洲に向ひ益都出發        兵器弾薬馬匹医料資材被爆者(清洲)</p> <p>内地帰還のための清洲黄台出發</p>
-------------	---	--

0172

外 比 四十三

年月日	
概 要	<p>           一 青島特別市濠口菓中營に菓中衛隊            青島港出帆            二 佐世保上陸            三 独立歩隊才百九十三大隊ヲ編成セ爾ニ覆員ヲ終了            四 大隊長以下ニ名 残務整理ノ為リニ日市 芝那派遣車連絡所ハ出頭            五 石期間に於ケル大隊長官以名左ノ如シ            初代 陸軍中佐 松岡勝明            二代 少佐 松浦 隈雄            三代 大尉 小林 丈七            (昭和二十一年十二月十日附)         </p>

0173



年月日	<p>自 昭 和 八 年 五 月 三 日</p> <p>三 一 三</p> <p>三 八 九</p> <p>三 五 四 三 二</p> <p>八 五 五 四 四 三 二</p> <p>三 一 三</p>
概 要	<p>十九夏作戦参加</p> <p>幹才四名作戦参加</p> <p>山東省兗州警備及訓練</p> <p>秀雄が一号作戦参加</p> <p>山東省莒県警備</p> <p>終戦より帰還迄</p> <p>張店附近の警備</p> <p>内地帰還のより青南に集結</p>



第十九独立警備隊司令部部略歴

部隊長 陸軍少将 石川 志夫

年月日	
概要	<p>編成完結ノ状況</p> <p>編成才一日</p> <p>昭和二十一年五月十日</p> <p>編成完結</p> <p>昭和二十一年五月十五日</p> <p>編成完結地</p> <p>中華民國山東省歷城縣有南</p> <p>編成</p> <p>旅団司令部(含旅団通信班)</p>

七三三三三三

七

四十三

0177

年月日	
概 要	<p> <span style="float: right;">至 自 昭 二 五</span>  <span style="float: right;">天 二 五</span>  <span style="float: right;">八 六 五</span>  <span style="float: right;">四 三 三</span> </p> <p>           行動リ概要反日靖            済南地区の整備並訓練            至剛六一号作戦（主力）            右期間部隊の一訂け前任務を続行            済南地区の整備並訓練            終戦より帰還迄            停戦 済南地区の整備            内地派遣のため済南出発            青島港より乗船            復員            現地除隊         </p>

大正三の三四 外  
 支  
 四一三

		自 昭 三 二 九	年 月 日
		一 四 一	
		五 三 九	
	内 地 隊	一 一 一	
	准 士 官 十 十 官 一 二	五 一 一	
	支 九 一	二 之 二 一	
	計 一 一 四	三 三 三 三	
	場 竹 清 南	一 一 一 一	
合 計		一 三 一 一	
		五 一 一 一	
		二 之 四	
		三 三 三 三	
		一 一 一 一	
	佐 世 保	一 一 一 一	



1917年 五月 二十三日

独立警備歩兵第四十三大隊略歴

部隊長 陸軍大佐 藤田 宏

年月日	概
	<p>編成完了の状況</p> <p>編成担任部隊</p> <p>独立歩兵第四十一大隊</p> <p>編成場所</p> <p>山東省桓台縣張店</p> <p>編成日時</p> <p>昭和二十二年二月一日軍令第一八号に依り編成せり</p> <p>四月二十二日編成完了の編成を完了し</p> <p>五月十五日を編成完了日と定めり</p> <p>部隊の編成委員は是が部隊編成後の任務に任ぜられ、一初の日員</p>

年月日	概要
	<p>を除き、概して能率中以下の者を以て充当し、入院患者身体虚弱          并比較的多数に含有せしむ。兵器又現地銀々鹵鹽又器并を混合せ          り</p> <p>行動の概要及其の日時</p> <p>部隊の任務：山東省青州特別行政区及、之に隣接せる福胸寿先、高          着施趨平の諸界を其の警備担任区域とし、特に膠濟鐵道及其の支線          約百五十キロの警備と博山淄川、桓台并、諸界内に在る軍需資源及          諸諸重施設の確保と之が警備戒掩護に任す</p> <p>自五月八日          秀嶺才一号作戦及</p> <p>至 十八日</p> <p>自五月十一日          至 二七日</p> <p>玉剛才一号作戦に参加するの外任務の遂行は、軍側          武装団体に對する八路軍の壓迫に對しては、絶えず          積極的交戦と討伐を実施す</p>

年月日	概要
	<p>         朝のまじりもの          之月上海に於りて、弄光景オミ所ノ不接作集          之月中旬に於りて、臨胸原及極台高松築に侵入せるハ路障に討す、大東          并吉介          七月下甲、衣現ヲ変化に伴ひ、英方ヲ強店に集結シ、隊兵ヲ巨圍          下に、在留氏約メテ之ヲ保護ト強店ノ確守ヲ乞送セリ          昭和二十一年一月十九日 清南業結ヲ命セリ小 強店出発          同日 清南に到着          同一月二十七日 白馬山に於て武装ヲ解除シ、          二月四日 清南出発          同月十七日 青島に到着          同三月二日 乗船          同 五日 佐世保に上陸復員ヲ実施す          昭和二十一年五月 日 復員完結       </p>

0810

0182

独立警備歩兵第四十四大隊略歴

年月日	概要
昭 三〇 五 五	<p>編成年月日及編成完備地                      山東省武定県武定</p> <p>歴代大隊長官氏名                      才一代 陸軍少佐 江田 實一郎                      才二代 " 大尉 山田 三 達</p> <p>編成概要                      軍令陸甲才一八号に基き編成下令                      編成他に山東省益都に定められ                      四月十日に編成才一日とレ、編成に着手す                      編成部隊は、歩兵才三十八大隊本打及二伯中隊を主幹とし、才五十</p>

8810

0183

内 北 五 四十三

年 月 日	概 要
	<p>九師團 各大隊より一部兵力を編入せり此 假編隊を行ひ 四月二十一日 武定縣城に至り 不承周辺の剿共工作に從事 終戦に伴ひ八月十九日武定を出発 八月二十一日 荷南に到着 不承周地附近の警備に従事 一月十一日 全軍武装解除に伴ひ 悉武装の儘疎店に至り、邦人の 保護 引揚の掩護指導のため荷南出発 一月十二日 疎店到着 不承 山東軍邦人の青島向け進出の指導掩護に従事 三月十五日 全山東軍及邦人の復員引揚げ完了に伴ひ、復員のため 環店を出発 三月二十二日 青島港口集中營に到着す 三月三十一日 乗船開始 三十一日 出帆</p>

0184

4337 外 北支 四十三

年月日	<p>三 自 取 文 九</p>
<p>概 要</p>	<p>四月二日 任世保壳神ノ假泊            四月三日 上陸            四月四日 復員式在石世保 針尾田通六團營庭ノ於テ举行 茲ハ不            隊ノ参加セテ主ナル作戦行動            剛一ノ著作            紙遺人員            将校            准士官            下士官            兵            計</p> <p>七九八            七九四            七三三</p>

<p>年月日</p>	<p>概</p>
<p>要状の有無 飯還時要状なし</p> <p>其り也</p> <p>終戦後に於ける大隊の任務遂行に對しての詞を言ふ</p> <p>(一) 折南周也の世の青蒿道出に對し、委細官崎參謀より職務了 小田大隊長及卸隊將失つ健斗に對し、衷心より敬謝の意を表す</p> <p>支那派遣軍總司令部</p> <p>(二) 貴部隊 殲滅到着以來、率並に邦人復員帰國の整々円滑に終了せるは、大隊長以下將兵の奮戦を命下せる崇高なる犠牲的精神の発露にして、皇軍有終の美を榮耀せしむに對し、敬謝に堪はず</p> <p>第四十三軍司令部</p>	

独立警備歩兵第四十五大隊略歴

部隊長 白根 五、五  
 副隊長 陸軍大尉 佐 沢 武 郎

年 月 日	概 要
昭 和 五 五	<p>編成                  編成                  編成                  大隊本部（通稱班一を含む）                  歩兵中隊                  銃死隊                  兵器（主隊）                  LM 三                  M9 二                  L9 五二                  MW 一〇                  LW 一五</p>

0187



年 月 日	昭 三 五 五 天 三
概 略	<p>           小馬匹            四七頭（日本馬一七頭 大陸馬二〇頭）            編成後ノ行動ノ概要及其ノ日時            中華民國山東省臨清県に於テ編成完結            秀雄一男作戦参加            参加兵力一〇五七名 損失なし            山東省臨清県附近ノ警備            （昭二、八、九 山東省東津県在機對斗            参加兵力二七五名            戦死 三七名）            済南府駐ルルノ臨清県出張            山東省済南市到着         </p>



独立警備歩兵第四十六大隊略歴

師隊長 陸軍大尉 矢崎太郎

年月日	概
五月一日	<p>編成完結の状況 編成下令</p> <p>中華民國 山東省德県に於て編成業務を開始し、要員の主力は五月十九師團 一部は独立混成第九旅團より充用せられたり</p> <p>編成完結</p> <p>行動の概要及其の日時</p> <p>編成完結と同時に要城警備を為し、警備を命ぜられた。大隊本部は山東省德県に位置し、津浦線德県―濟南間 及 膠濟線濟南―濰縣間に分駐せられた。鐵道警備に専念せしめられた。</p> <p>同年五月十五日</p> <p>五月十五日</p> <p>五月二四日</p> <p>六月三日 香嶺を一日作戦（要城確保作戦）に参加せり</p>

0190



支那の歴史 内 北支 五十三

年月日	
概	<p>同日附近の警備中清南兼轄の命令に據し  一月十二日 清南 白馬山に營に集結 復員業務を突進しつて併呑  し居りたりと云ふ  一月二十三日 復員カ為 清南出發  二月二日 青島港到着  中国軍政即管理集中營に收容セリ  二月十五日 一師兵力（二中隊 銃砲隊）を復員カ為出發セリ  三月十日 二月十七日 上 下 依り青島出發  前者は二月十八日  後者は二月二十日  佐世保港上陸 右々上陸日正以て復員完結</p> <p>特 記 事 項  終戦後 足力 津浦線飲道警備に任じつゝありたりとも 土匪の</p>

0192

年月日

概

要

跳梁甚しく、暫晴、鐵道破壞頻繁を極め、其の勢力、梅子谷  
 からのびる情態となり、各分駐備隊連絡を断たし、加うるに  
 再度の襲撃を受くも、都度退却せり  
 折柄、昭和二十一年十月二十三日、山東省德県黄河崖站警備  
 に任じつゝありし、金子伍辰以下九名、遂に土匪数千名の包  
 圍攻撃を受け、重圍を突破し撤収せんとし、其の何消息  
 なく、遂に生死不明となり  
 越く、十月二十七日、山東省平原県城に在りし第四中隊長  
 布施中尉、前記黄河崖奪還並に情況調査の爲に出動せし部隊  
 主力を率ゐる部隊主力、ハ協力せしむる爲に出動せしむ  
 途上優勢なる土匪に前進を妨害せし、加うるに巨圍攻撃を受け  
 け、戦斗約九時間、巨圍に亘る間、敵勢力益々増加し、約数千  
 となり、戰場紛争情態となり、遂に中隊長以下十四名  
 壮烈なる戦死を、中隊長代理、ニ宮少尉以下一先、戦場前

大分県

外

北支 四十三

年 月 日	
概  要	<p>脱を圖り、一有安藤を取行せるも、佐藤安長以下三四名、遂に消息を断ち、生死不明とな小り。</p> <p>越中十一月二十二日、山東省、万城県万城に警備中の中隊長、税所中尉内歩次一三三、中隊、オニ大隊の配属中。</p> <p>同日、鉄道修理列車脱線転覆との報に依り、中隊長以下三五名、二小が援助に出動したるも、救地宜に於て櫻打なる匪団の官圍攻撃を受け、遂に消息を断ち、生死不明とな小り。</p> <p>尚、同日、同隊小林夕嗣以下二三名は山東省平原県深杜に在り、若整備に任じつつありたるも、土匪相呼応して、前記と同様、優勢なる矢りて以て襲撃、力戦奮斗せしも、遂に消息を断ち、同日以降生死不明と確証せり。</p> <p>依に即隊内歩次一三三、中隊長と共に、直に武力を以ち、或は止氏に言に依り捜査せるも、依然消息を得ず現在に至る。</p>

0194

独立警備歩兵第四十七大隊略歴

部隊長 陸軍大尉 濱野 仁

年月日	概
五月二日	<p>編成完結の状況 策定開始</p>
五月五日	<p>編成次日 小笠原省長と関係者及び茶屋五十九師団（衣師団）よりの抽出兵力を 基幹として編成され</p>
五月五日	<p>編成完結 人員は定員の約十分、自動火器は約十分不足</p>
五月五日	<p>行動の概要及びその日時等 部隊は当初本師を泰安に位置、泰安県肥城県東平県の一部</p>



<p>至 自 五 四 五 五</p>	<p>年 月 日</p>
<p>至剛一男作準参加</p> <p>秀雄一男作準参加</p> <p>即隊兵以下七白七。名、同作準は、即隊は愛城増保部隊として参加しありしが、小東省東平東阿平隊は皇城を約五万の共産軍に包圍攻撃され、即隊は全力を以て此小が救援並に刺戟の力を行動せり、本隊は、東平東城警備隊は玉碎し、戦死十一名、生死不明十九名を数せり</p>	<p>概</p> <p>要</p> <p>新蒸泉の一部反地域内ノ鐵道炭鐵警備に任じ 文月十日以降、同省平隊泉に移駐、東平泉東阿泉の警備 終戦後は済南市に移駐し済南市の警備一部を以て鐵道警備に 任じ復員に至り</p>

年月日	<p>自 昭 七 下 至 八 二</p>
概略	<p>東昌陽教救援隊に參加 部隊長以下七百五十名、七月中旬頃より東昌陽教兩泉城の皇 軍中國軍に、約數万の八路軍に包圍され、危城に陥り、却 隊に對代休を編成し救援す</p> <p>武装解除 復員の爲山東省済南出發 山東省青島着 山東省青島着出發 佐世保上陸 復員式</p>

独立警備歩兵第四十八大隊略歴

部隊長 陸軍大尉 森川久雄

年月日	概要
昭和二十一年四月一日	<p>編成完結の状況                      軍令陸甲オ十八号より編成下令                      假編成着手                      假編成完結                      兵員はオ五十九師団（衣笠田）より抽出兵力を以て基幹となり                      軍令に依り編成オ一日                      結成完結                      大隊は独立歩兵オ百十一大隊及 独立歩兵オ四十五大隊よりの建制                      ニテ中隊（一般中隊）を基幹とし、他中隊（銃砲隊を含む）は前                      託抽出兵力を以て兼成す</p>
昭和二十一年四月五日	
昭和二十一年四月十五日	

0198

年月日	
概	<p>編成完結時に達したる妥員 充足、將校以下定員の八〇%となり、不後  遂後充足せられ、七月に至り約九〇%となり  部隊裝備兵器(軍令に依る)別紙オニの如し、兵器は小銃を除く外  約七〇%を充足せり</p> <p>行動の概要</p> <p>部隊は山東省新泰縣新泰に於て五月十五日編成を完結す、や直に附  近一帶の要域確保に任じ、並力を以て秀嶺一帯作戦に参加す</p> <p>六月十三日整備交代のため、山東省泰安に移駐を命ぜられ、同地に  軌道、同地附近整備並に濟南——大汶河間新軌道の整備に任ず</p> <p>八月十四日、終戦となり部隊を某處に集結せしむ、國民黨軍及共産  軍との相剋のため、再び軌道確保を命ぜられ、主力を張家口に抽進  前記の軌道區域を整備す</p>

0199

年 月 日	
概 要	<p>           昭和二十一年一月十七日 歴城奥有南に集結            同日二十三日 武蔵解隊を受け            " 十日 復員内地帰還のたりに有南出発            二月二十一日 青島港に到着            二月十三日 青島港を出帆す            " 十七日 佐世保上陸            同日 復員         </p>

七三九  
 の  
 北支  
 四十三



年月日	至	自	至	自	至	自	至	自
	七	五	八	七	七	五	八	七
	一	五	五	五	五	五	五	五
統	<p>有南北方築城作業 佐藤軍曹以下十五加 懸影山</p> <p>磯山洞窟陣地作業警備 神野伍長以下三十名</p> <p>晋穂山洞窟陣地作業警備 小泉伍長以下三十名</p> <p>有南陣地洞窟陣地構築作業 井上隊長以下之各中地区作業隊に本部要員として既属 千仏山</p> <p>有南東方洞窟陣地構築作業 小泉尾習士以下百名各東地区作業隊に既属</p>							
要								

至	自	至	自	至	自	年 月 日
一 〇	五	九 三	〇	九 五	八 三	八 六
<p>龍洞莊 八 既十名</p> <p>濟南市內陣地構築作業 田中少尉以下四十名</p> <p>濟南附近宿舎（奧地引揚卸隊並居留民團）整備作業 石坂隊長以下二十三名既屬</p> <p>膠濟線鐵道復旧作業 村上隊長以下九十九名 持田大隊に既屬 龍山一 英國寺前</p> <p>旧五十九師團官舎管理 林軍曹以下三〇名</p>						



年 月 日	自 百 五	自 二 三
観	第四十二軍視地自瀋陽州作業 給被伍費以下三十名第四十三軍補給隊に配属 済南新華園	膠濟鐵道状況復築並連絡 小泉小尉以下三十名 郭店設立警備隊才四十七大隊
要	復員帰還 購置命令 済南出港 徒步行軍及列車輸送 青島到着 青島乗船 山心下	

150000  
七  
反  
411

年月日	
概 要	<p>昭 和 二 一 一 一</p> <p>佐世保上陸 復員完結 於佐世保旧針尾捕魚団</p>

5080

0205